

福音メッセージ 人は風も、死の日も支配できない

伝道者の書 8章

- 1 知恵のある者とされるにふさわしいのはだれか。物事の解釈を知っているのはだれか。
人の知恵は、その人の顔を輝かせ、その顔の固さを和らげる。
- 2 私は言う。王の命令を守れ。神への誓約があるから。
- 3 王の前から慌てて出て行くな。悪事に荷担するな。王は自分の望むままを行うから。
- 4 王のことはには權威がある。だれが、王に「何をするのか」と言えるだろうか。
- 5 命令を守る者はわざわざを知らない。知恵ある者の心は時とさばきを知っている。
- 6 すべての営みには時とさばきがある。人に降りかかるわざわざは多い。
- 7 何が起こるかを知っている者はいない。いつ起こるかを、だれも告げることはできない。
- 8 風を支配し、風をとどめておくことのできる人はいない。死の日を支配することはできず、この戦いから免れる者はいない。そして、悪は悪の所有者を救い得ない。
- 9 私はこのすべてを見て、私の心を注いだ。
日の下で行われる一切のわざについて、人が人を支配して、わざわざをもたらす時について。
- 10 すると私は、悪しき者たちが葬られて去って行くのを見た。
彼らは、聖なる方のところから離れ去り、わざを行ったその町で忘れられる。これもまた空しい。
- 11 悪い行いに対する宣告がすぐ下されないので、人の子らの心は、悪を行う思いで満ちている。
- 12 悪を百回行っても、罪人は長生きしている。
しかし私は、神を恐れる者が神の御前で恐れ、幸せであることを知っている。
- 13 悪しき者には幸せがない。その生涯を影のように長くすることはできない。
彼らが神の御前で恐れないからだ。
- 14 空しいことが地上で行われている。悪しき者の行いに対する報いを受ける正しい人もいれば、正しい人の行いに対する報いを受ける悪しき者もいる。私は言う。「これもまた空しい」と。
- 15 だから私は快樂を賛美する。日の下では、食べて飲んで楽しむよりほかに、人にとっての幸いはない。これは、神が日の下で人に与える一生の間に、その労苦に添えてくださるものだ。
- 16 私が昼も夜も眠らずに知恵を知り、地上で行われる人の営みを見ようと心に決めたとき、
- 17 すべては神のみわざであることが分かった。人は日の下で行われるみわざを見極めることはできない。人は労苦して探し求めても、見出すことはない。
知恵のある者が知っていると思っても、見極めることはできない。

I. 王への従順

1. 知恵の祝福

- 物事の解釈を知っていたら、どんなに幸いか(1節) 顔は明るくなり、表情はやわらぐ
- この世の悪と不条理(8章後半)
 - (1) 「神が存在しないから」→ 絶望 解決なし
 - (2) 「神は存在する」→ なぜ今、裁きがくだされないか (ソロモンの疑問)

ペテロの手紙第二 3:8, 9

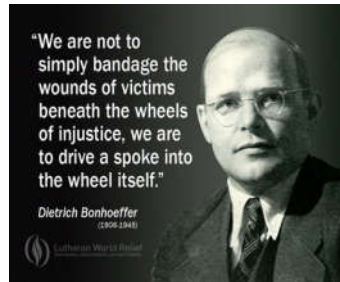
しかし、愛する人たち、あなたがたはこの一つのことを見落としてはいけません。主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

2. 王に仕える者に必要な知恵

- 王の命令を守る (自分の判断ではなく)
 - NG1 慌てて王の前から出て行く(神に聞かない態度)
 - NG2 悪事に加担する(正しくない方法)
- 王の権力の強大さをわきまえる(神の力に信頼する)

「我々は、不正という車輪の下に敷かれた犠牲者に包帯を巻くだけではいけない。車輪そのものに輪留めの棒を打ち込まなければならない。」

D・ボンヘッファー



マタイの福音書 6:33

まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

ローマ人への手紙 12:19~22

愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。次のようにも書かれています。「もしあなたの敵が飢えているなら食べさせ、渴いているなら飲ませよ。なぜなら、こうしてあなたは彼の頭上に燃える炭火を積むことになるからだ。」悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

II. 摂理への従順 (摂理 providence pro 前もって vidence 見ること)

1. すべてにふさわしい時とさばきがある(6 節) 3章参照

- たとえ悪い行いに対する宣告がすぐ下されなくても(11節)
- たとえ悪を百回行っても長生きする罪人がいても(12節)
- たとえ正しい人が悪しき者の報いを受け、悪しき者が正しい人の報いを受けても(14節)

2. 人に降りかかるわざわい(不幸、災難)は多い(6 節)

- 何が起こるか、だれにもわからない(7節)
- 風も死の日も人には止められない(8節)
- 戦いを途中で放棄することはできない(8節)
- 悪は悪の所有者についていく(8節)

3. 信仰者への慰めと励まし

- 神を恐れる者は幸せ(12節)
- 悪しき者の人生は影のように実体がない(13節)
- 平凡な幸せ(食べ、飲む) 「快樂」→「楽しみ」「団らん」

4. ソロモンの懐疑に対する答え

- 毒麦の譬え、地引網の譬え(マタイ13章)



伝道者の書 12:13, 14

結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命を守れ。これが人間にとってすべてである。神は、善であれ悪であれ、あらゆる隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからである。

ローマ人への手紙 8:1

こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。